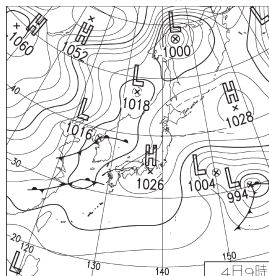


日々の天気図

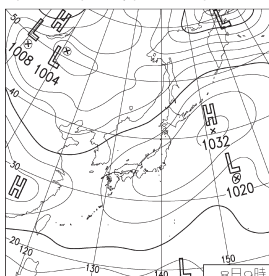
— No. 83

2008年12月

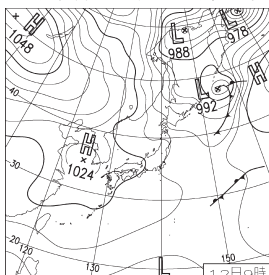
・4日～5日、寒冷前線の通過に伴い、各地で強風や突風。富山県朝日町29 m/s、横浜市27.3 m/sの瞬間風速。沖縄、神奈川、東京で雹発生。
 ・26日～28日、オホーツク海に発達した低気圧、冬型の気圧配置。北海道えりも町40.3 m/sの瞬間風速。福島県檜枝岐村87 cm/24 hの降雪量。
 (気象庁予報部予報課)



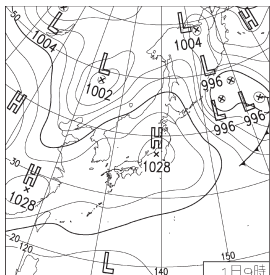
4日(木)西から気圧の谷接近
 本州は広く高気圧に覆われていたが西から南北に連なる気圧の谷が接近。降り出した雨は西日本まで広がってきた。最高気温は全国的に平年並か平年より高くなった。



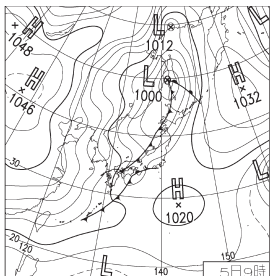
8日(月)東北～四国は小春日和
 高気圧の中心は北海道の東海上へ移動。日本には南から暖かい空気が流入。東北～中国・四国では、朝から昼過ぎまで晴れて11月中旬から下旬の気温。曇った九州では真冬並み。



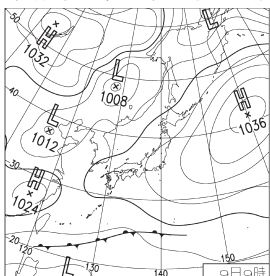
12日(金)西～東日本 気温上がる
 北日本中心の冬型の気圧配置。東北～北陸で曇りや雨、北海道で曇りや雪となった他は、黄海の高気圧に覆われて概ね晴れ。西～東日本の最高気温は平年並+3～6℃と11月並み。



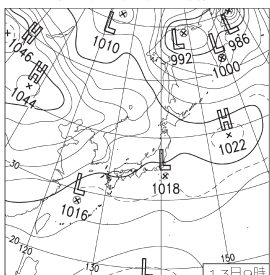
1日(月)長崎市で初氷
 日本付近は移動性高気圧に覆われる。九州南部と日本海側および東海の一部で曇った他は概ね晴れ。九州の最低気温は、平年より2～4℃低く12月中旬から1月並の気温。



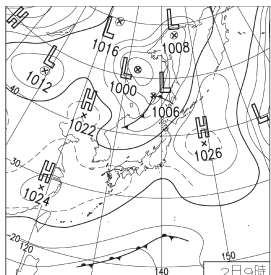
5日(金)東海と関東で突風被害
 寒冷前線が通過し、各地で雷雨や強風、高波。前線南側は気温高く、北陸の一部で20℃を超える。前線通過後は強い寒気が流入し気温下降。日本海側中心に、西日本でも夜には雪。



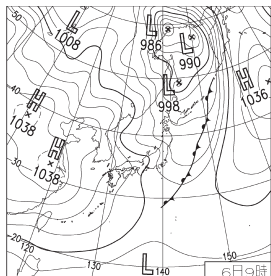
9日(火)天気全国的に下り坂
 本州付近は高気圧の勢力が東の海上に移り、南岸で低気圧が発生し曇りや雨。北海道東部は暖かな南風が入り釧路支庁浜中町で最高気温12.6℃。12月の記録を更新。



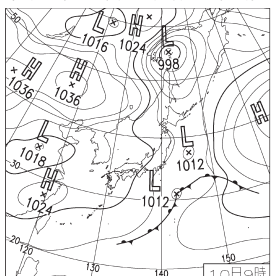
13日(土)台風第22号発生
 北日本では弱い冬型の気圧配置で雪や雨。東シナ海に低気圧が発生、九州の南から四国沖の海上へ進み、太平洋側でも天気下り坂。ふたご座流星群の極大期だが、星空は見られず。



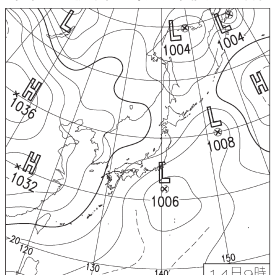
2日(火)福井・彦根 遅い初霜
 関東の東海上に低気圧が発生。関東～東北南部の一部で曇りや雨となった他は概ね晴れ。寒冷前線や気圧の谷の影響で北日本や西日本の日本海側は次第に曇り、雨や雷雨の所も。



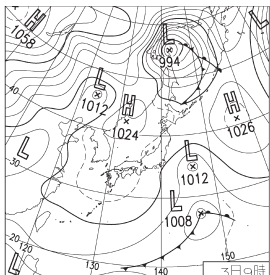
6日(土)西日本では真冬並み
 西高東低の気圧配置。九州北部から北の日本海側は雨や雪で風が強い。全国的に気温低く、西日本の最高気温は平年より6～10℃も低い真冬並。和歌山市や四国・九州各地で初雪。



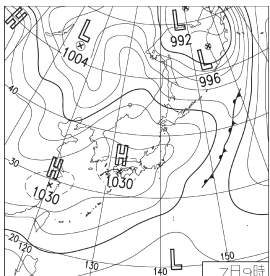
10日(水)晴れて暖か
 南岸を進んだ低気圧は東海上に抜け、日本付近は西から高気圧に覆われる。日中は全国的に概ね晴れ。最高気温は11月上～中旬並。朝、西日本中心に濃霧発生、交通機関に影響。



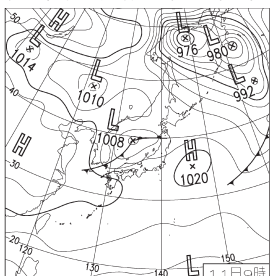
14日(日)全国的に寒い1日
 本州の南海上に低気圧が東北東進し西日本の雨は東日本に移った。日本海から吹き付ける風の影響で、日本海側を中心に雪。最高気温は低く全国的に肌寒い1日。



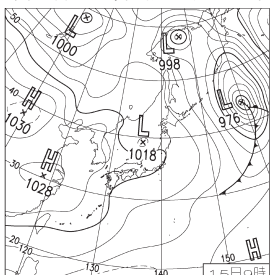
3日(水)概ね晴れ
 日本海の高気圧に覆われ晴れたが、気圧の谷の影響で東北や日本海側の一部で雨の所もあった。朝、所々で霧が発生したが、日中は解消し、全国的に気温は11月中旬並み。



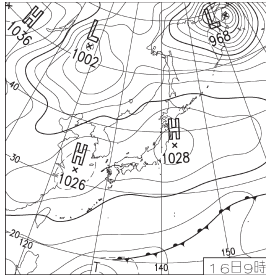
7日(日)全国的に朝冷え込む
 西日本から東日本は移動性の高気圧に覆われた。初めにくれた北陸～西日本の日本海側も次第に晴れ。全国的に朝は冷え込み、真冬並の所も。北陸・東海以西の各地で初霜や初氷。



11日(木)暖気のち寒気
 前線を伴った低気圧が北日本を東進。気温は北海道を除き平年を上回る暖かさ。前線近傍では雷を伴い、福岡市で7 mmのヒョウを観測。九州～東北は曇りや雨、北海道は雪やみぞれ。

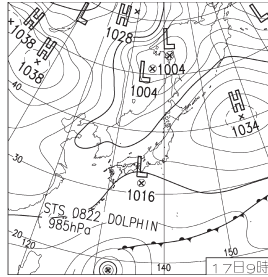


15日(月)放射冷却
 日本付近は寒気が流れ込み、日本海側の所々で雪や雨。朝は東日本中心に冷え込み、最低気温は長野県南牧村で真冬並の-16.1℃。東京都千代田区、横浜市、千葉市で初霜を観測。



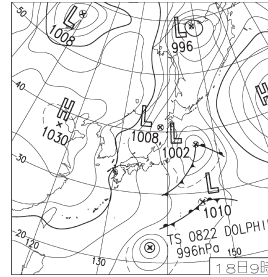
16日(火)晴れの日

日本付近は移動性高気圧に覆われる。北海道の日本海側と四国太平洋側の所々で曇り、その他は概ね晴れた。北海道稚内市の最高気温は7.1°Cで、平年より7°C高い11月上旬並。



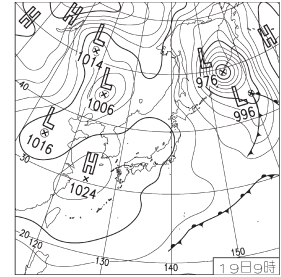
17日(水)南海上に低気圧

紀伊半島沖に低気圧が発生し、発達しながら北東進。東北部～近畿の太平洋側は曇りや雨。気圧の谷が通過した北海道の一部で雨となった他は高気圧に覆われ概ね晴れ。



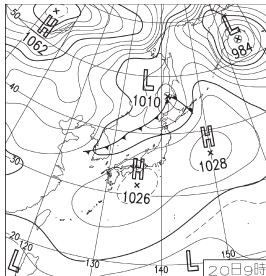
18日(木)冬型の気圧配置

低気圧が日本の東海上を発達しながら北上し、冬型の気圧配置に。北日本や本州の日本海側ではにわか雨、西または北西の風がやや強い。太平洋側では晴れ、内陸など所々で濃霧。



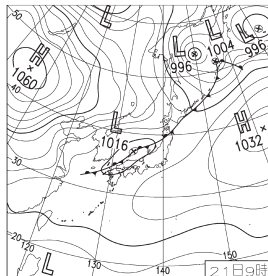
19日(金)広く穏やかな天気

本州付近は西から移動性高気圧に覆われてきた。北日本の一部で雪が降ったが、その他は晴れて穏やかな一日。西日本の太平洋側では日中の最高気温が15°Cを超えたところも。



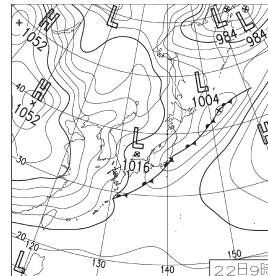
20日(土)前線ゆっくり南下

前線が日本海を南下。北海道～東北北部は雨や雪で、秋田県八峰町は66mm/日、東～西日本は高気圧に覆われ、日中晴れて暖か。最高気温は、全国的に11月上旬～下旬並。



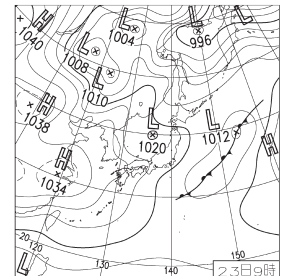
21日(日)長崎市 非常に激しい雨

前線が北海道の東～九州の西へのびる。前線に近い長崎市野母岬で53.5mm/1hの雨。前線南側の東日本以西は気温高く、最高気温は10月下旬～11月下旬並。関東は風も強い。



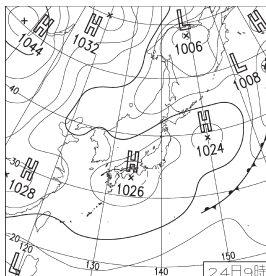
22日(月)宇都宮市 夜初雪

本州付近を前線が通過。東～西日本の日本海側や北日本は雨や雪。午前中晴れて最高気温が10月下旬並の所もあった関東・東海でも、夕方以降は曇りや雨で、気温は急下降。



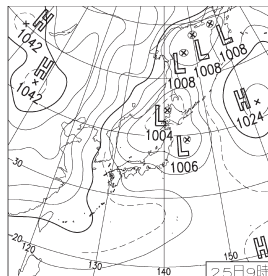
23日(火)上空 強い寒気が通過

上空に寒気を伴った小低気圧が日本海を東進し、北陸では所により雷。北日本の日本海側では雪、北陸から山陰では雨。一方、東日本～北日本の太平洋側では晴れた。



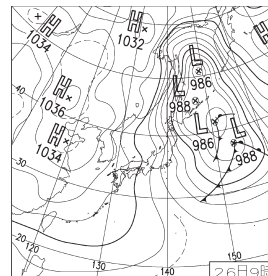
24日(水)移動性高気圧覆う

全国的に移動性高気圧に覆われ日本海側の寒気流入も一段落。西日本を中心に最低気温、最高気温とも真冬並み。天気の変化は早く午後には気圧の谷の接近で西から雨域が広がる。



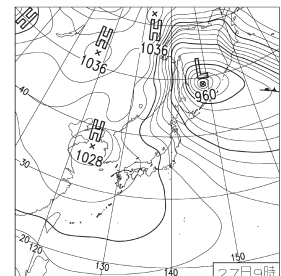
25日(木)冬らしい天気

日中、日本海側は低気圧や前線の影響で雨や雷雨。太平洋側は関東を中心に晴れ。次第に冬型気圧配置に移行、北～東日本山沿いは夜遅く降雪強まる。石川県輪島市10ミリのひょう。



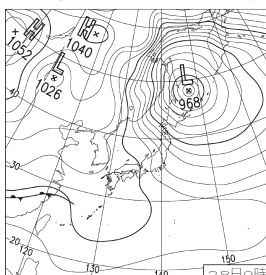
26日(金)冬型の気圧配置強まる

寒気流入で西日本から北日本の日本海側を中心に風雪強まる。神戸市ほか8市で初雪、また福島県楡枝村で日降雪量75cmを観測。太平洋側は関東を中心に冬晴れ。



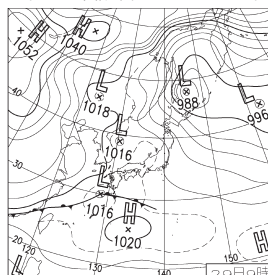
27日(土)引き続き冬型

冬型の気圧配置が続き、北日本は日本海側を中心に雪。北陸～近畿の日本海側も雪や雨。他は概ね晴れ。長崎市や東京都千代田区、伊豆大島、千葉県銚子市、千葉市で初氷を観測。



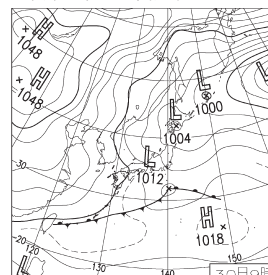
28日(日)北日本で大しけ続く

北日本中心に強い冬型の気圧配置が持続。北日本の海上では20m/s前後の強風で、青森沖では波の高さが7mを越す大しけ。快晴の東京は、最小湿度24%と乾燥。



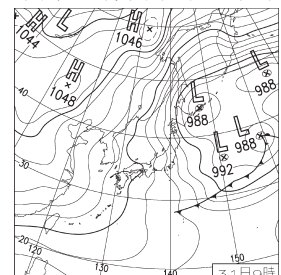
29日(月)冬型の気圧配置ゆるむ

西から気圧の谷が接近し、西日本の一部で雨。北日本の日本海側は始め冬型の気圧配置で雪。その他は晴れまたは曇りや穏やか。最低気温は北海道や九州で11月並み。



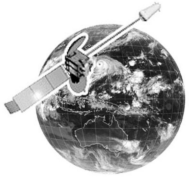
30日(火)再び冬型に

日中は太平洋側中心に穏やかな晴天。気圧の谷が日本の東海上に抜け、冬型の気圧配置が強まり寒気流入。夜には山陰～北日本の日本海側で雪。東北の日本海側では風雪強まる。



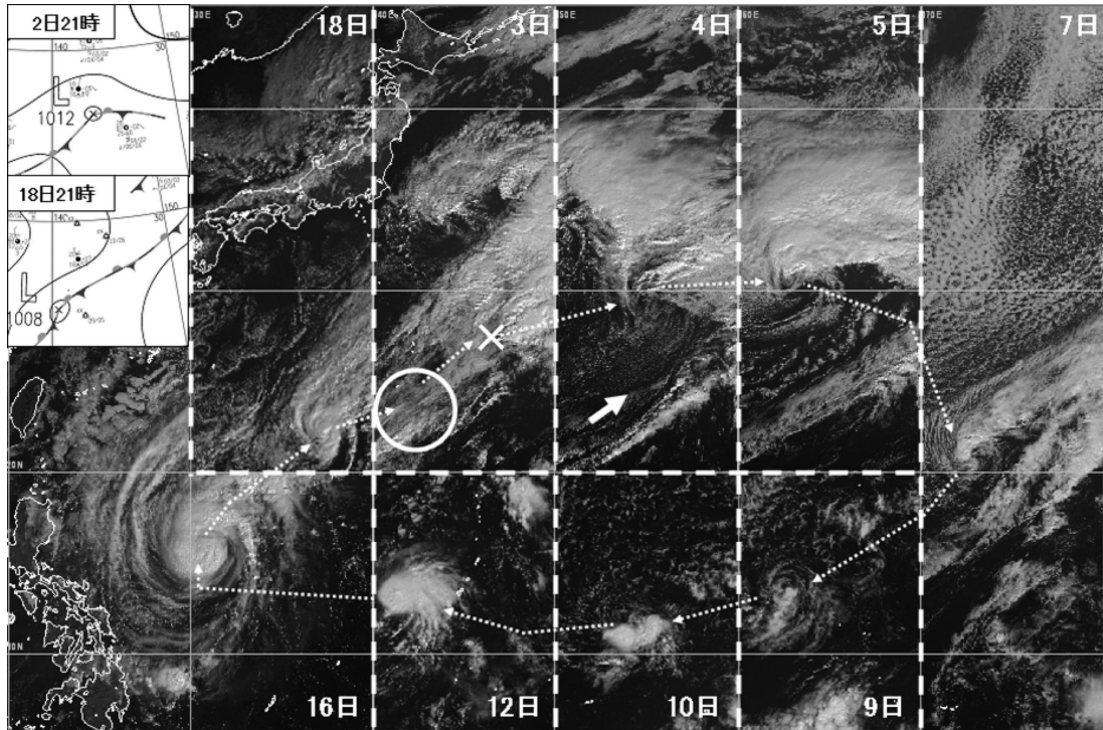
31日(水)冬型気圧配置が強まる

日本付近は冬型の気圧配置。西日本の日本海側で雨や雪、北陸から北日本では風雪が強く所々で吹雪。太平洋側は概ね晴れたが、近畿以西は寒気の影響により所々で曇り。



今月のひまわり画像—2008年12月

温帯低気圧から発達した台風0822号



図は3日～18日の9時の可視画像。16日の画像上に経度10度の幅で短冊状に切ってつなぎ合わせてあり、破線は日時の境界線。×は3日9時の低気圧の中心位置。○内には2日21時と18日21時に低気圧の中心位置があり、左上の2枚の図はこれらの時刻の地上天気図で、図の領域は小笠原諸島。点線の矢印は経路図。

2008年の台風は年間発生数が22個（平年値26.7個）と少なく、上陸数は0個と1951年の台風統計開始以降4回目の少ない記録となったが、最後に発生した台風第22号は温帯低気圧から台風に発達した非常に珍しい台風であった。

2日21時に図中の○内の前線上で発生した1012 hPaの温帯低気圧は、4日9時には994 hPaまで急速に発達した。5日3時には前線が消滅し、15時には990 hPaまで発達後、進行方向を東南東から次第に南へ変えた。その後低気圧は海面水温が26°C以上の海上を進み、徐々に下層から上層まで周辺より暖かくなり始め、熱帯低気圧の性質を持ち始める。7日9時には

996 hPaまで弱まったものの、衛星画像では明瞭な下層渦が解析できていた。この後低気圧は11日15時に1000 hPaの熱帯低気圧に、13日3時には996 hPaの台風第22号に再発達し、16日3時に970 hPaまで深まった後、北上を始めた。16日21時以降は次第に衰弱し、18日21時には再び図中の○内付近で前線を伴った1008 hPaの温帯低気圧に変わり、19日9時に消滅した。

なお、今回の一連の動きは、500 hPaで南鳥島（図中の矢印）の南に中心を持つ高気圧の縁辺を時計回りに進んでいたと考えると対応が良かった。

（気象庁総務部航空気象管理官付 原 基）